

たいえ 高家周辺の古墳探訪

長瀬藪1号墳

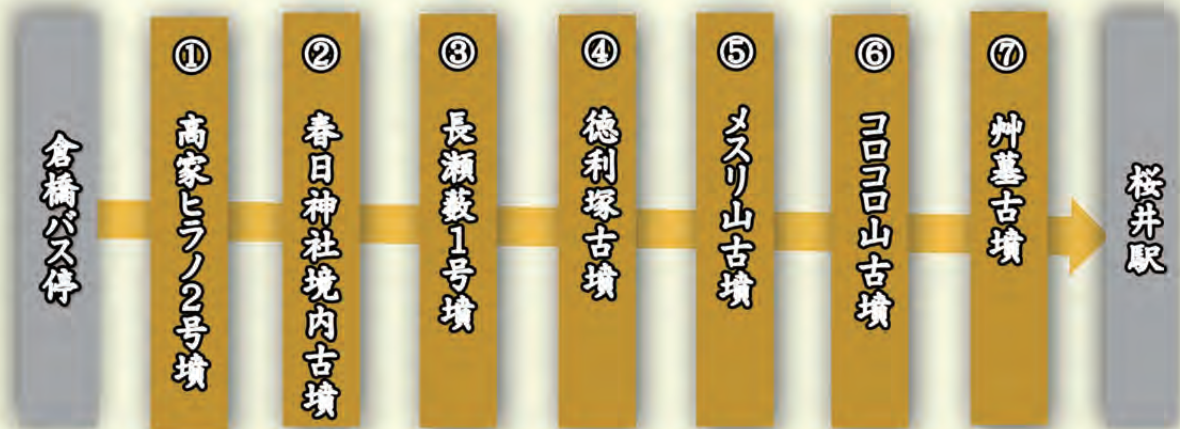
～ 体験しよう！桜井の古墳ワールド！ ～

高家（たいえ）の里は名前の通り標高およそ300mの山村で、多武峰と飛鳥の間に位置します。古くは倉橋、針道、細川と共に多武峰四郷と称され、一説にこの地は天武天皇の皇子で日本書紀の編纂者として知られる舎人皇子が住まれた所とも言われています。集落の南にある春日神社の境内には巨石を使った横穴式石室があり、境内周辺の景観も見ものです。

集落から奈良盆地を見下ろす山間には、およそ100基ほどといわれる高家古墳群が広がります。中でも長瀬藪1号墳は巨大な石室を持つ古墳で石室内にも入れます。山間部にある関係で行きたくてもなかなか一人では行きにくい古墳群もありますが、この冊子を参考に探索いただき古代のタイムカプセルともいべき古墳の数々を、歴史の息吹を感じながら是非体験ください。

モデルコース(※全行程約10km)

※桜井駅からバス利用の場合



※メスリ山古墳、コロコロ山古墳、艸墓古墳は高家地域の古墳ではありませんがコースの編成上入れてあります。尚、全行程にはバスの距離は含んでいません。

古墳探訪・・その前に

日本のはじまりの地、桜井市には、女王卑弥呼の墓ではないかと言われる箸墓古墳をはじめヤマト王権発祥の地に相応しい古墳が数多く残ります。そんな桜井の古墳の中から、今回は、あまり知られていない高家周辺にスポットを当て探訪可能なおすすめの古墳についてご案内いたします。出かける前には以下の事に留意され、古墳探訪をしていただくようお願いいたします。

① マナーを守ろう！

- ・今回、ご案内の古墳の多くは横穴式石室が開口しており石室内に入り見学する事ができます。しかしながら古墳は文化財であると同時にお墓であるという事を忘れてはなりません。近くに所有者の方、あるいは、ご近所の方がおられれば、お声がけしてから入ってください。
- ・古墳の石材や遺物を持ち帰ることは法律により罰せられます。
- ・獣害防止用のフェンス（長瀬藪1号墳）やコロコロ山古墳の出入口は見学後、必ず元の状態に戻してください。

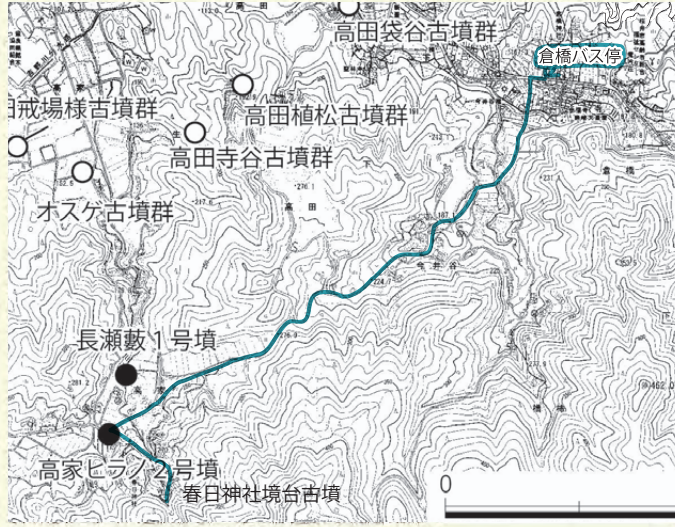
② 安全に！

場所によっては、雑草や熊笹が生い茂り、道なき道を探索する場合もあるかと思しますのでくれぐれも安全対策の上、お出かけください。（このコースでは軽登山靴、ウォーキング用の杖、軍手、帽子、磁石、懐中電灯、GPS付携帯電話等の装備をおすすめします。）

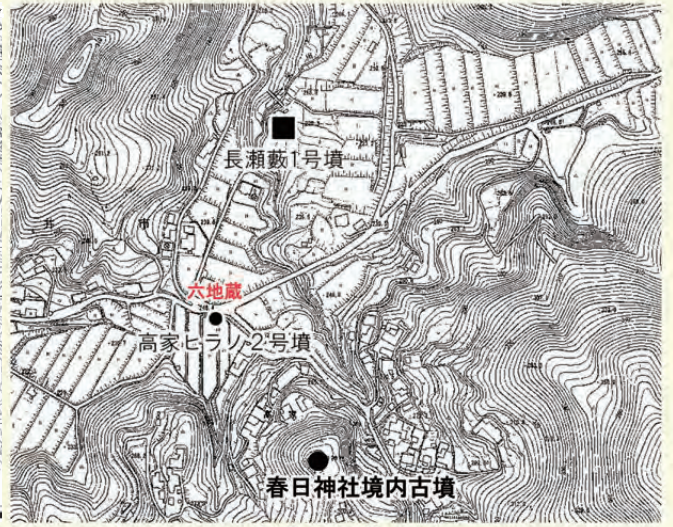
古墳探訪ガイド

高家への行き方

高家へは県道15号線奈良交通「山田寺」下車が最短コース(徒歩約30分)ですが冬季は運行されませんので、この冊子では年中運行されている桜井市コミュニティバス多武峯線の倉橋バス停からのコースで紹介しています。このルートの場合、倉橋バス停から高家(六地蔵の前)までおよそ徒歩40分です。交通の便は悪いですが農免道路から眼下に広がる奈良盆地の眺望を楽しみながら万葉の里高家を目指してください。



高家への徒歩ルート



高家地区拡大図

高家への道

高家ヒラノ2号墳



倉橋バス停



倉橋橋



八講桜駐車場



米川(よねがわ)



六地蔵



高家ヒラノ2号墳



高家ヒラノ2号墳

高家への道は農免道路を歩きます。緩やかではありますがほとんど登り坂になります。水分補給に気を付けてゆっくり歩きましょう。

- ① 桜井市コミュニティバス「倉橋」バス停で下車し、少し戻り三差路に向かいます。
- ② 三差路を左折します。
- ③ そのまま緩やかな坂道を直進します。
- ④ 少し行くと小さな橋があります。流れる川は万葉集で知られる倉橋川です。
- ⑤ 道路が分岐しますので写真の矢印の方向に進みます。
- ⑥ 少し歩くと桜で有名な「八講桜」の看板が見えてきます。
- ⑦ そのまま進みますがこのあたりから登り坂となり峠を目指します。
- ⑧ 峠を過ぎたこの付近からだんだん眺望がひらけてきます。
- ⑨ 米川にかかる橋を通り過ぎます。
- ⑩ 道の右側に六地蔵が見えてきます。
- ⑪ 三差路のコーナーの内側に高家ヒラノ2号墳があります。
- ⑫ 矢印のあたりが入り口です。



八講桜



六地蔵

春日神社境内古墳（仮称）



高家集落の守り神、春日神社境内にある古墳を目指します。途中にある万葉歌碑(舎人皇子作・揮毫:熊谷守一)や眼下に広がる奈良盆地や大和三山のひとつ畝傍山、万葉集でも知られる二上山など見所もたくさん。坂道ですが頑張って歩きましょう！

- ① 高家ヒラノ2号墳の三差路を上へ上ります。(古墳迄約10分)
- ② 緩やかな登り道を蛇行しながら道筋に沿って進みます。
- ③ 集落の中ほどにある写真を参考に右に曲がりそのまま上ります。
- ④ 直ぐに写真のような民家(栢木邸)が見えてきます。
- ⑤ 栢木邸の庭先には万葉歌碑があります。(見学自由)
- ⑥ この民家に続く小道を道なりに進むと簡易トイレがあります。
- ⑦ そのまま進むと春日神社が見えてきます。矢印のところに
あるのが春日神社境内古墳(仮称)です。
拝殿前にある伊行恒作の五輪塔にも注目。
- ⑧ 神社横から眺める二上山は絶景です。



五輪塔



万葉歌碑

長瀬藪1号墳



高家ヒラノ2号墳から長瀬藪1号墳の行き方です。徒歩約10分で行ける場所がありますが、長瀬藪1号墳の周辺は雑草や熊笹が生い茂っていますので、足元など安全確認しながら探索してください。

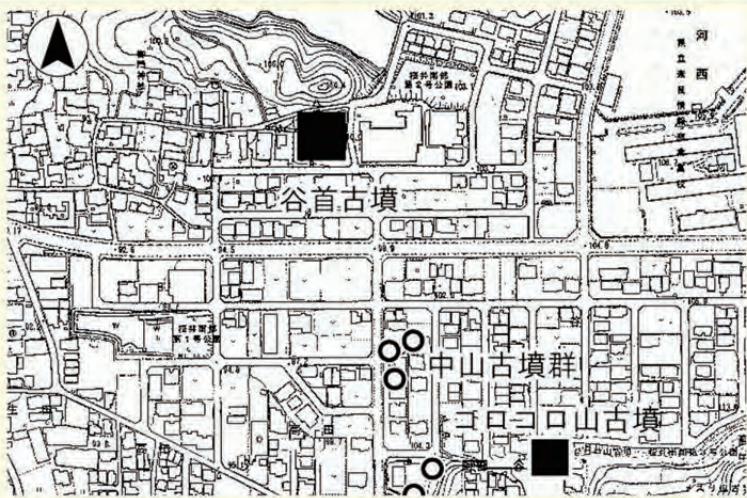
- ① 三差路にある六地藏に向かって右の農免道路から行きます。
- ② 米川にかかる橋を過ぎると写真のような風景が広がり、左折し、いったん坂の下まで降り、今来た道の左横に小さな脇道(農道)が並行してあるので鋭角に入ります。(見落としやすいので注意しましょう)
- ③ 畑がやや高くなったところに獣害防止用のフェンスがあります。一声かけて扉を開けて中に入ります。(入ったら直ぐに閉めてください。)
- ④ そのまま畦道を直進します。左手に見える小屋が目印です。
- ⑤ 左手にある小屋に向かいます。
- ⑥ フェンスと小屋の間を進みます。(巾80cmくらいの狭い隙間です。)
- ⑦ 説明板を目標に開口部を探します。
- ⑧ 開口部です。土砂が入り込み石室内はかなり圧迫感がありますが入れます。(懐中電灯が必要です。)

徳利塚古墳



徳利塚古墳は山奥にあり、特に行先表示的なものは何もないので、やみくもに探しても見付かる古墳ではありません。ここでは比較的わかりやすいコースを写真地図で紹介します。(一部の坂道が簡易舗装されていますが大変滑りやすく雨降りの後や落葉のシーズンは滑らないように特に注意が必要です。)

- ①メスリ山古墳の後田部南側の池のそばの火の見櫓付近に交差した写真のような道があります。
- ②道なりに沿って進み民家が途切れたあたりで道が二つに分かれます。右側を通ります。
- ③しばらく細い地道を登ります。
- ④ほぼ登ったあたりにこんな目印があります。この木と木の間の小道を降りていきます。
- ⑤すぐに下に着くので右にすすみます。(降りてすぐにコンクリート製の溝があり 雑草で見えにくい時があるので十分注意が必要です。)
- ⑥そのまま進みます。途中で猪の捕獲用の檻もあります。(いつもあるとは限りません)
- ⑦更に10数メートル歩くと道の右下方に石室の石材が見えてきます。
- ⑧これが徳利塚古墳です。



メスリ山古墳出土品

コロコロ山古墳



奈良県立商業高校からのルートで紹介しています。(この古墳を単独で見る場合は桜井駅下車徒歩15分前後です。)

- ①奈良県立商業高校の交差点を抜けメスリ山古墳に向かって直進します。(南に直進します。)
- ②メスリ山古墳の直ぐ手前のT字路を右折します。
- ③すぐ左側にフェンスに囲まれたコロコロ山古墳が見えてきます。突き当りを左折します。
- ④扉は常時しまっていますが施錠されていないので石室に入ることができます。

メスリ山古墳、岬墓古墳については「桜井の古墳探訪シリーズ①」に掲載しております。

高家周辺の古墳探訪(1)

標高300メートルにある巨石墳

①春日神社境内古墳(仮称) (高家)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
不明	不明	横穴式石室	6C代	

高家の最高所、標高300mの尾根端に高家の氏神、春日神社(高田神社)が鎮座します。その拝殿脇にあるのが春日神社境内古墳(奈良県遺跡地図では14D-D249)です。横に拝殿が建てられたせいか奥壁西側が破壊され、羨道部の一部が残った横穴式石室が遺存します。

埋葬施設は南に開口する片袖式石室で、石室内は土砂が流入し詳細は不明ですが、昭和33年発行の桜井市文化叢書の「古墳」には石室の外容から推定すると玄室長は約3.5m、幅約2m、高さ約2m、羨道部は長さ約5m、幅約1.5m、高さ(現高)1mとあります。外に露出している石材等から比較的大きめの石材が使われているようです。築造時期は発掘調査がされていないのでよくわかりませんが、石室の石組から6世紀代の古墳かと思われます。

また神社周辺から見る二上山、畝傍山等は市内でも有数の素晴らしい景観です。併せてお楽しみください。

周辺の景観も素晴らしい

②高家ヒラノ2号墳 (高家)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
不明	不明	横穴式石室	6C後半頃	

高家から生田(おいだ)へ通じる道と明日香村の八釣(やつり)へ通じる道の交点の海拔250mに位置し、奈良盆地が一望出来る景勝の地に造営されています。元々は高家ヒラノ古墳群と呼ばれ内部主体に横穴式石室を持つもので、いずれも水田下に埋没していました。1、2号墳は昭和52年(1977) 3、4号墳は平成2年(1990)度に調査されました。

現在、見学が可能な2号墳の埋葬施設は南西方向に主軸を持つ両袖式の横穴式石室ですが天井石と奥壁の右側部分が失われています。石室規模は全長が約9mで玄室部の長さが約4.1m、幅約2.6mで羨道部の長さは約5.2m、幅1.6mで玄室から羨道部途中にかけて石敷が施されています。

埋葬施設は石棺材が出土せず玄室部から鉄釘が出土していることから木棺の可能性があり、遺物については馬具、金環、須恵器、土師器などで築造年代は6世紀後半頃が考えられます。被葬像としては飛鳥や磐余地域を望む立地から、これら宮都にかかわった官人層が考えられます。

高家古墳群の盟主が眠る

③長瀬藪1号墳 (高家)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
方墳	一辺30m	横穴式石室	6C後半頃	

標高200mの山間部の谷地形に密集する約40基で構成される「長瀬藪古墳群」として知られ、後に土地区画整備事業関連で水田下からも新たに30数基があることが判明し「高家古墳群」と改称されました。中小規模の多いこの群集墳の中では際立って大きな規模を有し盟主墳といえる古墳です。

墳丘は、ほぼ東西南北の方位に一致した線上に各辺を置く方墳です。埋葬施設は西に向かって開口する両袖式横穴式石室で、全長は約10.7m、玄室長約5.9m、幅約2.5m、現高2.4m、羨道の幅は約1.5mで、高さは現高約0.8m。大型の自然石の花崗岩で構築されています。

開口部付近から土砂が流入し、かがまないと入れませんが見学は可能です。(懐中電灯が必要)副葬品については知られていませんが石組みの特徴から6世紀後半に築造されたと思われます。被葬者としては飛鳥に近接していることから宮都にかかわった官人層が考えられます

高家周辺の古墳探訪(2)

割貫式石棺が残る

④ 徳利塚古墳

(高田)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
不明	不明	横穴式石室	7C中頃	

徳利塚古墳は別名植松西支群1号墳で桜井市高田に所在し、袋谷川の両岸の尾根に造られた古墳群で川の西側を植松西支群(徳利塚を含み3基で構成)東側を植松東支群(8基で構成)と呼んでいます。

昭和33年発行の「古墳」という本には次のように紹介されています。「徳利の窟古墳 高田の集落より宇植松をとおり標高326m突の経ヶ塚に向かう尾根より左に分岐した尾根の1つ、高田寺跡に向かって西に伸びる尾根の南斜面に造営された古墳で、外形を知ることが難しいほど破壊されていますが、ひとつの花崗岩塊を刳り抜いた棺身を有する古墳として特記すべきものである」と紹介されています。

円墳又は方墳で、南に開口する全長6mの両袖式石室を持ち玄室部が2段積み、羨道部が1段積み新しい要素が伺えます。棺は近江系の花崗岩製の刳抜式石棺で石室に比べて大きな石棺です。玄室北隅から出土した刀子以外築造時期をさめる有効な出土品がありませんが、石室の構造等から7世紀中頃の築造と考えられます。

阿部地域に所在する大型方墳

⑤ コロコロ山古墳

(阿部)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
方墳	一辺30m	横穴式石室	6C末~7C初頭	

元々メスリ山古墳の西方20mの所に所在していましたが、土地区画整理事業の関連で発掘調査され、現在の場所に移築保存されています。1辺約30mの方墳で墳丘の中央の横穴式石室の他、東側にも小規模な横穴式石室が併設されていました。中心の主体部は両袖式横穴式石室(全長11m)で、床面は追葬された形跡があり、羨道部には素掘りの排水口が設けられ礫積みの閉塞石も確認されています。

出土品は築造当時のものとして金環、ピンセット状鉄製品、鏝、追葬時のものとして鉄釘、金銅製刀子、鉄斧、環状鉄製品が知られています。築造年代は6世紀末から7世紀初頭で、追葬が7世紀中頃に行われたと考えられています。被葬者としては阿倍氏の基盤地域であり関連が目目されます。入口は施錠されていないので自由に見学することができます。また副葬品の一部は桜井市立埋蔵文化センターで展示されており、金銅製の刀子は追葬時の副葬品の一部で珍しい蛇行した刀子です。

安倍氏の奥津城か

⑥ 艸墓古墳

(谷)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
方墳	南北28m 東西22m	横穴式石室	7C中頃	国史跡

安倍山丘陵の西南斜面に位置する南北約28m、東西約22m、高さ約8mの方墳。墳丘斜面に玉石の露出箇所があり葺石の可能性もあります。両袖式石室は花崗岩を用い南東方向に開口し、全長は約13m、玄室長約4.4m、幅約2.7m、高さは約2m。石組みは玄室部の奥壁、側壁や羨道部の一部は巨石を使い、1段1石で構成されています。いずれも切り石状に加工されており玄室の側壁と天井石の隙間には漆喰が残っています。

玄室には刳貫式の家形石棺が石室の主軸に並行しておかれています。石材は兵庫県の竜山石製で比較的良好な状態で残っていますが、奥側の小口部に大きな盗掘穴があります。尚、家形石棺の前に一枚の置石があり墓碑を乗せる台ではないかとの説がありますが定かではありません。

早くから盗掘され副葬品は不明ですが、石積みの特徴から築造は7世紀中頃と思われます。